

【様式】

平成28年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立四日市南高等学校)

1 目指す姿

| | | |
|------------|---------------|--|
| (1) 目指す学校像 | | 豊かな人間性や高い志を育てることを基本に据え、ひとり一人の生徒の可能性を引き出し、学力の伸長と進路希望の実現を図る。 |
| (2) | 育みたい 児童生徒像 | ○知識を得る喜びと思考や表現への意欲を喚起する魅力ある授業によって、すべての生徒が主体的・協働的に学ぶ楽しさを高めあっている姿。 ○ホームルーム活動、生徒会活動、部活動、特別活動などを主体的に取り組み、それらを通じて感性、人権意識、他者への思いやり、忍耐力、向上心など、豊かな人間性と将来の社会に貢献できる高い志を得ようとしている姿。 |
| | ありたい 教職員像 | ○高い志や豊かな人間性を備えた生徒たちの個に応じた進路希望の実現に努力し続け、また自らも学び続ける教職員集団。 ○地域及び家庭との連携を積極的に図り、社会からの信頼を築いていこうと努力し続ける教職員集団。 |

2 現状認識

| | | | |
|-----------------------------|------|---|---|
| (1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待 | | <p><生徒> ○学習活動及び特別活動を通じて充実した学校生活と進路希望の実現。</p> <p><家庭> ○様々な教育活動のさらなる充実とそれらを通じた子どもの学力向上と進路希望の実現。</p> <p><地域> ○地域の諸行事への生徒の積極的な参加による地域の活性化。と同時にそれらを通じた「地域のリーダー」育成を目指した教育活動の推進。</p> | |
| (2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待 | | <p>連携する相手からの要望・期待</p> <p><家庭> ○子どもの様子等積極的な情報の発信。</p> <p><中学校> ○卒業生の様子や入試情報等積極的な情報の発信。</p> <p><地域> ○地域活性化のための諸行事への積極的な学校（生徒・職員）の参加。施設開放。</p> | <p>連携する相手への要望・期待</p> <p><家庭> ○本校教育活動への理解と協力。基本的な生活習慣の確立と家庭内学習環境の整備。</p> <p><中学校> ○基礎学力の定着と基本的な生活習慣の確立。継続的効果的な指導のための個々の生徒の情報共有。</p> <p><地域> ○本校教育活動への理解と協力。様々な媒体での本校教育活動の発信。</p> |
| (3) 前年度の学校関係者評価等 | | <p>○生徒の視野を広げさせることが必要であり、そのために外に目を向けさせ、ホンモノの大人と関わらせ、活躍のステージの機会を作るという取組は高く評価できる。さらに推進するために連携先と学校のサポートが重要である反面、失敗から学ぶ機会があってもよい。</p> <p>○普段からアクティブラーニングを継続し、他の生徒から刺激を受け、多くの「わかる・できる」体験が、結果的に自信を育む。</p> <p>○基礎的知識を習得させるため従来型の授業を大切にしながらも、アクティブラーニングやICT活用は、大学や社会でも必要な手法でもあるため、授業をデザインするときに、さらに推進し、次代を担うリーダーの育成を図ってほしい。</p> | |
| (4) 現状と課題 | 教育活動 | <p>○教育活動全般にわたって、まじめに取り組む生徒が多い。反面、人間関係に悩む生徒も増えつつあり、また校内美化、交通安全、防災、SNS対応等への意識を向上させることも必要である。</p> | |

| | |
|-----------|--|
| 学校 運営等 | <p>○多様な生徒に対し「不易流行」に則り、生徒の実態の的確な把握・効果的な指導改善を行っている。最新の教育情報を取り入れ、授業力向上を図るとともに、生徒の主体的学習習慣向上を図る取組をさらに推進する必要がある。</p> <p>○学年・分掌内で各自の役割に責任をもって業務に取り組んでいる。学年・分掌の連携、防災、地域や保護者とのより強い連携をいっそう推進する必要がある。</p> |
|-----------|--|

3 中長期的な重点目標

| | |
|-------|---|
| 教育活動 | <p>○豊かな人間性と高い志の育成 キャリア教育や教育相談体制を充実させるとともに、部活動や特別活動等のさらなる活性化や人権教育推進を図りながら、知・徳・体の調和のとれた21世紀の社会を生き抜く力と志をもった生徒の育成に取り組む。</p> <p>○学力の向上 生徒の学力層に応じた、よりきめ細かで効果的な学力向上策を構築する。</p> |
| 学校運営等 | <p>○学力の向上 教育改革や新たな大学入試、新教育課程に対応し、教員の授業力や進路指導力向上のために、授業公開・協議や研修会等を充実させるとともに、OJT等によるスキル向上に取り組む。</p> <p>○組織力の向上 安全安心な学習環境を構築し、学年・分掌が連携して効果的に目標を達成するために、常に「全体最適」かつ「生徒第一」の視点で取組を行い、検証する。また、防災教育、郷土教育、社会貢献の視点も含め、保護者・地域連携を行い、より地域に開かれた学校づくりを推進する。</p> |

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|-------------------------------|--|--|------------|
| キャリア教育の充実 (生徒ひとり一人の希望進路実現) | <p>1) 初期指導の充実を目指し、「学習のてびき」をもとに3年間の進路ストーリーを示すとともに、低学年から進路講話・進路講演会を通じ、高度な学問への夢を引き出すよう取り組む。</p> <p>2) 個人面談の充実、課外授業への受講奨励など、進路カウンセリングをすすめることにより、希望進路実現のための学力向上を図る。</p> <p>【活動指標】各学年 6 回の個人面談の実施、定期的な進路説明会講演会の実施</p> <p>【成果指標】生徒の満足度90%</p> | <p>進路指導年間計画による進路行事等を中心に、各学年単位やクラス単位でのキャリア教育をすすめることができた。</p> <p>各学年6回の個人面談、全体で計15回の説明会・講話・講演会の実施</p> <p>生徒の高校生活全般の満足度 86.7%</p> | ◎ ※ |
| 学習指導の充実 | <p>1) アクティブラーニング型授業により、主体的・協働的・問題解決的な学習活動に取り組む。</p> <p>2) 「予習～授業～復習(課題)」のサイクルに基づいた学校(授業)中心の学習習慣の確立を図る。</p> <p>3) 生徒による授業等の評価の実施</p> <p>【活動指標】生徒による授業等の評価を2回(1学期、2学期)実施する</p> <p>【成果指標】生徒の授業への満足度90%</p> | <p>アクティブラーニング型授業への取組もすすみ、生徒の主体的な授業参加の意識が向上した。</p> <p>2回の授業評価の実施</p> <p>生徒の授業内容への理解満足度 83.7%</p> | ◎ ※ |
| 豊かな人間性と高 | <p>1) 自他の命の大切さについて様々な機会を通じて指導し、いじめのない安全安心な学校生活を送れるよう取り組む。</p> | <p>様々な機会を通じて、「命の大切さ」を指導しながら、落ち着</p> | |

| | | | |
|-------|--|--|---|
| い志の育成 | 2) 基本的な生活習慣を確立させ、学校内外でのマナーについて公共性を身につけられるよう取り組む。 【活動指標】 毎学期の人権HR、毎月の重点指導の実施 3) 外部機関との連携による「ホンモノ体験・本気体験」を通じ、地域で活躍する大人や高い専門性に触れることにより、生徒がより広い視野を身につけられるよう取り組む。 【活動指標】 学校外における各種学習会研修会、行事への参加 【成果指標】 参加生徒延べ人数50人 | いた学習環境をつくるため、基本的な生活習慣の確立を意識した生徒指導を展開できた。 「ホンモノ体験・本気体験」により、参加生徒には広い視野と大人とのディスカッションによるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上が見られた。 希望者の参加 参加生徒延べ人数約150名 | ◎ |
|-------|--|--|---|

改善課題

校長のリーダーシップによる様々な取組により、落ち着いた学習環境が整備され、生徒の学習意欲の向上が随所に見られた。次のステップとして、次期学習指導要領を念頭に置いた「カリキュラムマネジメント」により、目指す学校像（生徒像）実現のため、授業のみならず特別活動や外部連携もとりにいれたキャリア教育をより充実させていくことが求められる。

（２）学校運営等

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|--------------|---|---|--------|
| 組織力の向上 | 1) 積極的な情報共有のもと、ひとり一人の生徒に合わせた組織的な進路指導を推進する。 2) 生徒の基本的な生活習慣の確立に向け、全職員の共通認識を図り、職員が一丸となって取り組むことできる体制をつくる。 【活動指標】 職員会議をはじめ、各学年会・各分掌会・各委員会での積極的な情報共有 【成果指標】 職員満足度90% | 各学年の取組を中心にした進路指導により、成果が見られつつある。 各会議での情報共有 職員の情報共有への満足度 64.7% | ◎ |
| 専門性の向上 | 1) 高大接続・大学入試制度改革等の情報を積極的に集め、また現職教育や校外研修に積極的に参加し、学習指導・進路指導・生徒指導等の専門性の向上を図る。 【活動指標】 2回の現職教育、各種校外研修会学習会への参加 【成果指標】 職員満足度90% | のべ98名の職員の各種研修会や情報交換会への出席により、幅広い情報が集められ、生徒への指導に活かしながら、職員の専門性が向上した。 現職教育研修会5回、校外研修参加者98名 職員の研修機会への満足度 79.4% | ◎ |
| 働きやすい職場環境づくり | 1) チームで仕事を分け合える体制づくりをすすめるとともに、職務内容や会議の精選等を行い、総勤務時間の縮減を図る。 | 個人で仕事を抱え込むのではなく、チームで分け合える体制・雰囲気づくりをすすめることができた。 | ◎ ※ |

| | | | |
|--|------------------------------|-------------------------|--|
| | 【活動指標】諸会議の効率化・会議時間の縮減への取組の実施 | 勤務時間を超えない放課後 会議の時間設定 | |
| | 【成果指標】全教職員総勤務時間数前年比5%減 | 前年比8%増 | |

改善課題

目指す学校像（生徒像）実現に向けた教職員の意識は高く、校長のリーダーシップのもと、一人ひとりの生徒を大切にしたいきめの細かい様々な指導は、高い志を持った生徒の育成に確実に結びついている。しかし同時に、多様な生徒に寄り添いつつも、教材研究・質問対応・進路指導・部活動指導等に長い時間を費やし、総勤務時間の縮減につながっていない。

5 学校関係者評価

| | |
|---------------------|--|
| 明らかになった改善課題と次への取組方向 | <ul style="list-style-type: none"> ○より良い授業改善への課題のひとつとして、OJTがあげられる。ベテランと若手という関係に限らず、研修や授業見学等を通じて教職員のスキルアップを目指してほしい。 ○大学、中学校、保護者、行政等地域の外部教育力を使った取組は、生徒に授業のみでは身につかない大きな力となり、視野を拓けることにつながるの明かである。今後とも様々な機会を通じて連携を深めてほしい。 |
|---------------------|--|

6 次年度に向けた改善策

| | |
|--------------|---|
| 教育活動についての改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ○「3年後だけでなく、30年後を生き抜く力をつける」ことを目指したキャリア教育をより充実させるため、各教科指導、特別活動等を通じて生徒に身につけさせたい能力を整理・共有する「カリキュラムマネジメント」をすすめる。 ○アクティブラーニング型授業の研究をさらにすすめ、より効果的・効率的な「生徒の主体的な学び、対話的な学び、深い学び」を目指した授業改善活動をすすめる。 ○校内での教育活動を基盤に、地域の外部教育力をさらに導入し、様々な「体験活動」により、生徒に広い視野と社会性を身につけさせる取組をすすめる。 |
| 学校運営についての改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ○「チーム南高」を合い言葉に、より効果的・効率的な学習指導・進路指導・生徒指導を目指し、各学年・各分掌間の情報共有・連携をさらにすすめる。 ○「一人ひとりを大切に」を大前提に、教育相談や特別な配慮を必要とする生徒に対する支援体制をより充実させ、また医療・福祉等各機関とも連携できる仕組みづくりをすすめる。 ○教職員の過重労働解消・総勤務時間の縮減に向けた取組を組織的にすすめる。 |